おわりに

『協働』ってなあに？　～ インタビューでの皆さんの言葉を紹介します ～

かかわることで、全体がつながっていくこと

役割分担と、役割分担の中での協力体制

人対人のかかわりなので、人付き合いが一番大事

お互いが押し付けあうのではなく、協力し、補い合いながら課題解決に向かってよりよい方向へ向かうこと

求められるだけでなく、お互いに支えあう関係

立場がどちらであれ、（対等に）一緒にやっていくこと

みんなで手を取り合って、対等な立場で互いを認め合い取り組むこと

義務感が強くならないように

エンドレスで、雲間に光を求めるような取組

「ひとりよがり」にならないこと

それぞれが「プロ意識」を持って、やるべきことをきちんと果たす

ベクトルを合わせて取り組む

一緒に飲むことかな

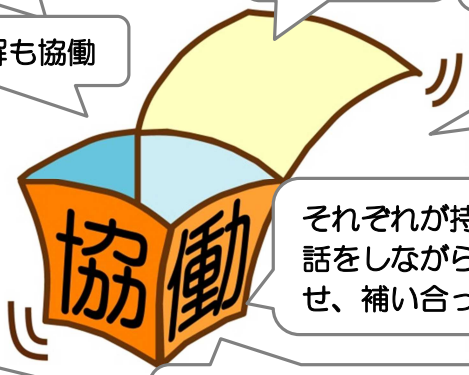
一緒に汗をかいて、最後に感動を味わうこと

「お互いが応援団」

事業への理解も協働

お互いの認知度があって初めて成り立つもの

皆で汗をかくこと、そしてともに楽しむこと



人のつながり

人の輪を広げ、信頼関係を築くこと

それぞれが持つ能力を、話をしながら、組み合わせ、補い合っていくこと

職員が地域の人と一緒に盛り上げる

同じ目的を共有し、市民、行政それぞれの立場で能力を発揮していけば、自然にうまくいく

地域のことを知り、理解していくこと

面と向かって話し合って進めることが、肝

情報提供も協働

地域が市に求めるんじゃなくて、自分らでやっていく。それに市が支援するということ

ゆるやかなつながりも大事

みんなでコミュニケーション

地域の知らなかった人から声をかけてもらい、名前を覚えてもらい、地域全体がつながっていくのがいい。

何でも相談できる関係があること

一つのことを皆でやって、目的を共有すること

キーマンを見つけて、できれば若い力で

双方が「よかった、楽しかった」と言える関係が大切

お互いさま

得意分野を出し合い、生かし合って一つのことに取り組むこと

皆、一人では生きていけない。
行政がやること、町内会がやること、それぞれがよく話し合ってやっていくことが必要

共通した目標を持った上で、
さまざまな考えを持った人々が集まり、
考えをぶつけ合い解決していくこと

市民には、行政とどう関わればいいのか、どうせ言ってもやってくれないという思いがある。行政だけだと保守的になってしまいがち。お互いのよいところを出し合って一つにすることが協働